



◇一般質問とは行政全般にわたり、市長などの行政側に対し、現状や見通しを質問したり、あるいは報告や説明を求めたりすることです。

◇時間制限は質問、答弁時間を含めて60分以内です。

◇一般質問をする議員はその要旨を事前に通告することとなっています。

# 一般質問

6月定例会では9名の議員が一般質問を行いました。  
本会議のネット中継及び録画配信を行っています。  
ホームページや各議員のQRコードから視聴できます。



6月定例会において延べ35名の方が傍聴にお越しくださいました。ありがとうございました。

## 喫緊の課題である人口減少問題はどうように

女性が両立できる環境と社会全体で子育て支援する気運醸成が重要



北野 唯道 議員



Q コロナ禍により疲弊した市内経済の復興や、少子高齢化の進展による人口減少問題について

A 大手企業の好業績などを背景に株価は高値を更新し、国内経済には明るい兆しも。本市においても新規就業者支援や計画的な森林整備、中小企業の体質強化や新規創業支援など、各種取り組みを総合的に講じながら、産業全体の活性化を図っていく必要があると考えている。

少子化や人口減少についても早急な対策をしなければならぬ。そのためには子育て世帯の経済的負担の軽減や男性育休取得の配置基準の見直しや放課後児童クラブで過ごす時間の充実など、女性が「仕事」と「家庭」を両立できる環境をつくることも、地域や社会全体で子育てを支援する機運を醸成することが重要。

Q 令和4年度の決算見込みについて

A 決算見込額は5月31日現在で、歳入346億4千万円、歳出329億8千万円、歳入歳出差引額16億6千万円。翌年度へ繰り越すべき財源（繰越明許等）1億9千万円を差し引いた実質収支は14億7千万円。



## 新白河駅南湖線の安全対策について

減速を促す看板を設置した



大花 務 議員



Q 国道294号白河バイパスの開通に伴い、ベイシアから南湖バイパスまでの新白河駅南湖線を通行する車両が増加し、農業従事者から危険を感じるとの意見がある。農業従事者の安全を守るための対策について

A 新白河駅南湖線の西大沼地内にあるミニストップから国道294号白河バイパスまでの区間は、周辺が農地であり、農繁期は農業従事者が頻りに利用する道路である。また、この区間は白河バイパスの開通に伴い、新白河方面へ走行する車の交通量が増大しており、農業従事者より安全対策を求める要望があったことから、5月に減速を促す看板を設置したところである。引き続き、交通状況を確認し、効果的な安全対策を講じる。

Q 今年の敬老会と敬老祝い金の増額について

A 9月27日にコミネスで開催する予定。敬老祝い商品券2千円は75歳以上の方全員に支給される。敬老祝い金増額は、団塊の世代が全員75歳以上になる「二〇二五問題」も控えていることから敬老会のあり方も含めて総合的に検討する。



# 本市郊外地域の生活の不便さへの対応策を伺う

地域自ら知恵を出して行政と地域で話し合いコラボしていきたい



佐川 京子 議員



**Q** 公共交通の充実に  
ついて、循環バス路線  
延伸や路線バスの利活用を考  
えてほしい。

**A** 本市の公共交通施策の「地域公共交通網形成計画」の新たな計画の策定作業を進めているところなので、住民アンケートなどを踏まえ検討を重ねてまいります。

**Q** 放課後児童クラブについても一時預かりの実施を検討してほしい。

**A** 本市では、空き定員に余裕がない施設が多いので、現時点での導入は難しい。

**Q** こどもの個性を伸ばす教育が求められているが、教育長の考えを伺う。

**A** 児童生徒の成長の理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえて指導支援し、個性を生かしながら生き生き学べるよう各学校に指導してまいります。



空から見た五箇地区

持を図り、地域の振興を進めていく。

**Q** 近頃本市郊外において日常生活の不便さから不安を訴える人が増えているが、本市郊外地域の振興について市長の考えを伺う。

**A** 市民の利便性向上を図ることは当然だが、地域の人々の自発的な活動の支援を通してコミュニティの維持を

# 市民協働を推進するために専門部署の設置を!!

他自治体の事例を参考に検討していく



緑川 摂生 議員



**Q** 市民協働専門部署が必要では。

**A** 市民協働に関する業務は「しらかわ市民活動支援会」に委託している。相談体制の強化や充実を図るとともに、市民ニーズや他の自治体の事例も参考に、専門部署のあり方について検討をしていく。

**Q** 市民が来庁された際の窓口対応を伺う。

**A** 市役所を訪れるお客様には、忙しい中、不安や話にくいことの相談など様々な方がいる。窓口では笑顔でお迎えし、気持ちのこもったあいさつでお見送りするよう取り組んでいる。行政は最大のサービス業である。

協働して取り組むことが、従来にも増して重要である。

**Q** 市民協働への考えを伺う。

**A** 市民が安心して暮らし将来にわたり地域社会の維持発展を図るには、行政、自治会、市民活動団体、事業者などがその役割や責任を担い、信頼関係のもとで課題の共有と解決のために



# 自転車乗車中の致命傷の部位は？

約6割は頭部の負傷が要因



室井 伸一 議員



**Q** 自転車のヘルメットを購入した高校生以下の子どもや高齢者に対して、費用の一部を助成してみてはどうか。

**A** 本市における過去3年間の自転車利用中の交通事故被害者数は令和2年が死者1名、負傷者6名、令和3年が負傷者4名、令和4年が負傷者6名となっている。自転車用ヘルメットの着用が努力義務となり、自転車利用の方が、身の安全を確保するだけではなく、周囲の歩行者などへの安全意識の向上や、交通事故防止にもつながり、重要であると考えている。

自転車用ヘルメット購入時の一部助成については、警察署や関係団体と連携しながら、先進地の事例も参考に検討してまいります。

**Q** 子宮頸がんワクチンに対する周知及び啓発活動について

**A** 子宮頸がんワクチンは小学6年生から高校1年生の女性を対象に定期接種が行われている。周知等については、個別勧奨はがきの送付や厚生労働省からの通知による医療機関への周知をし、広報等で勧奨記事を掲載する。



# これで、運転免許証が返納できるか。との市民の声!

制度全体を多方面から検討し、関係機関と連携しながら、改善を図りたい



大竹 功一 議員



Q 最近、高齢者が起こす悲惨な交通事故が多発し、社会問題になっている。それに伴い、市民の中にも運転免許証を返納する高齢者が見受けられる。しかし、市民から、現在の公共交通網及び現在の支援制度では生活ができないとの声が挙がっている。市は現状をどのように把握し、今後どのような対策をしたいと考えているのか伺いたい。

A 返納制度については、市HPやチラシなどを活用し啓発活動を行っている。市民からは担当課に対し、移動手段が大変であるとの声が寄せられており、先進事例を参考にし、関係機関とともに地域公共交通網形成計画等により検討したいと考えている。また、現在の支援制度についても拡充を含め検討している。

Q 動物愛護行政について、これまでに寄せられた苦情に対してどのような対応をしているのか。

A ご指摘のいただいている事案等については、現地に赴き、関係者に説明している。今後も同様にしていきたい。



# 「ローカルフード法・条例」等による「農村の内発的発展」実現を

農村の農地集約化計画、新規就農・農産物地産地消等を支援する



荒井 寿夫 議員



Q 「内発的発展」とは何か、どう実現してきたのか、今後あるべき「農村の内発的発展」に関する考えは。

A 住民主体の地域資源等の合理的活用に関する概念。実現例は、中小企業支援「産業サポート白河」設立、小峰城の文化資産継承等。そして農村の農地集約化計画や新規就農・農産物地産地消支援等の推進にある。

付言 現段階の農村の「交流型内発的発展」を要請する二つの視点、地球温暖化対策としての地域の脱炭素化と食料安全保障としての地域食料自給率向上、二つの体现例「地域循環共生圏」と「ローカルフード法案・条例」を提案したい。

Q 「脱炭素社会への転換」における農業・製造業・市民生活の脱炭素化を進めるのか。

A 農業はスマート農業等製造業は再エネ等の事例の上で団体と連携。市民生活は環境フォーラム等推進。

Q 「ジェンダーギャップ解消」を進めるのか。

A 男性の家事心援助講座、育休取得促進環境の推進等。

付言 SDGs視点の検討を。



# こどもの貧困対策、調査数と調査項目の見直しを行うべき

今年度の調査では、十分な精査を行い進めていきたい



大木 絵理 議員



Q こども家庭庁の設置に伴い、子ども未来室と各部署の連携等における課題と今後の方向性は何か?

A 関係部署と連携しているが、家庭環境等の背景にも目を向けなければ本質的な解決に至らないケースも多くある。今後はさらに市民に寄り添った窓口対応と各課の切れ目のない連携を心掛けていく。

Q 高齢者の支援に関する各部連携強化を行うべきだと思いが市の考えは?

A 各関係機関に直接情報提供ができるよう連携を図っていく。

Q 国の「こどもの貧困対策に関する大綱」と同様に、市の調査対象と調査項目の見直しをするべきだと思いが市の考えは?

A 十分な調査対象の確保と調査項目の精査を行った上で、今年度の調査を進めていく。

Q 小中学校における保護者との連絡手段は、スマホアプリを導入し、利便性の向上と教員の業務削減をするべきだと思いが教育長の考えは?

A 学校評価アンケート等ではデジタル化が進んでいる。今後も校長会等で協議をしながら検討していく。



# 80億超の余裕財源を使い、もっと市民要求に応えるべき



深谷 弘 議員

選挙のためなら市民要求に応える方が有利だが、将来のためには積立が必要(市長)

**A** 徹底した事務事業の見直しによる歳出削減、補助金等の最大限活用、起債(借金)の場合は交付税措置(国から補てん)の高いものを選択、財源確保や実質的な債務の抑制に努めてきた。また、企業誘致や徴収率の向上で市税を増やしてきた。

**Q** 余裕財源(財政調整基金、減債基金、公共施設等整備基金)が常に80億円超が積立てられている。積立額の目標はあるのか。生きた金として市民要求にもっと応えるべきではないか。

**A** 積立の目標・基準はない。かつて基金がないため潰れた地方自治体が多くあった。選挙のためなら市民要求にどんどん応える方が有利であるが、近い将来の公共施設等整備や複合施設建設などのためにこれくらいあれば間に合うだろうという判断である。



**Q** 財政健全度を示す財政指標・実質公債費比率が、合併直後(2006年度)の23・4%から、15年後(2021年度)には、9・5%へと改善している。この間、どのような取り組みを行ってきたのか。



## 令和4年度 政務活動費収支報告

政務活動費は、議員の調査研究その他の活動に資するため、必要な経費として市から交付されるものです。本市議会では一人あたり月額 2万円、年額 24万円を上限として交付し、残額が生じたときは返納することになっています。



市議会ホームページでも公開しています。

### <経費の範囲>

- 調査研究費 市の事務、地方行財政等に関する調査研究及び調査委託に関する経費
- 研修費 議員が研修会を開催するために必要な経費、団体等が開催する研修会の参加に要する経費
- 広報費 市政及び議員の活動について市民に報告するために要する経費
- 広聴費 市民からの市政及び議員活動に対する要望及び意見の聴取、住民相談等の活動に要する経費
- 会議費 議員が各種会議を開催するために必要な経費、団体等が開催する意見交換会等各種会議の参加に要する経費
- 資料作成費 議員の活動に必要な資料の作成に要する経費
- 資料購入費 議員の活動に必要な図書、資料等の購入に要する経費

(単位: 円)

NO	氏名	交付額	支出額	支出内訳							返納額	個人負担額
				調査研究費	研修費	広報費	広聴費	会議費	資料作成費	資料購入費		
1	大木 絵理	240,000	276,206	17,203	91,026	155,986	0	250	11,741	0	0	36,206
2	吉見 優一郎	240,000	235,408	20,000	51,150	62,158	0	0	68,000	34,100	4,592	
3	鈴木 裕哉	240,000	248,463	28,311	157,994	62,158	0	0	0	0	0	8,463
4	高 嶋 裕	240,000	135,426	0	51,150	62,158	0	0	22,118	0	104,574	
5	戸倉 宏一	240,000	201,841	87,001	40,840	74,000	0	0	0	0	38,159	
6	荒井 寿夫	240,000	459,888	51,280	72,496	336,112	0	0	0	0	0	219,888
7	根本 建一	240,000	245,108	0	91,026	154,082	0	0	0	0	0	5,108
8	室井 伸一	240,000	216,063	12,941	157,120	0	0	0	13,002	33,000	23,937	
9	緑川 撰生	240,000	254,145	0	91,026	163,119	0	0	0	0	0	14,145
10	柴原 隆夫	240,000	0	0	0	0	0	0	0	0	240,000	
11	菅原 修一	240,000	357,562	12,941	91,026	187,451	0	0	42,227	23,917	0	117,562
12	北野 唯道	240,000	380,737	0	0	380,737	0	0	0	0	0	140,737
13	水野谷 正則	240,000	240,583	47,074	157,120	27,197	0	0	9,192	0	0	583
14	佐川 京子	240,000	234,811	74,060	41,133	106,975	0	0	12,643	0	5,189	
15	藤田 文夫	240,000	216,668	87,001	40,840	74,000	0	0	14,827	0	23,332	
16	大花 務	240,000	319,931	0	91,026	192,390	0	0	36,515	0	0	79,931
17	縄田 角郎	240,000	195,386	0	157,120	0	0	0	6,790	31,476	44,614	
18	石名 国光	240,000	242,250	74,060	41,133	50,400	0	0	76,657	0	0	2,250
19	高橋 光雄	240,000	391,429	27,807	157,120	206,502	0	0	0	0	0	151,429
20	大竹 功一	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21	山口 耕治	240,000	246,030	109,006	40,840	74,000	0	0	22,184	0	0	6,030
22	須藤 博之	240,000	240,593	74,060	41,133	0	0	0	0	125,400	0	593
23	深谷 弘	240,000	124,445	0	0	0	0	0	81,600	42,845	115,555	
24	筒井 孝充	240,000	175,284	32,591	23,400	62,158	0	0	57,135	0	64,716	
合計		5,520,000	5,638,257	755,336	1,685,719	2,431,583	0	250	474,631	290,738	664,668	782,925
			構成割合	13.4%	29.9%	43.1%	0.0%	0.0%	8.4%	5.2%		

\*支出額のうち交付額を超える金額については個人負担です。